


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

▼ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		前回の外部評価で指導があった地域との関わりについてを現在会議等で話し合っている。「地域内の奉仕活動には、出来るだけ参加して行く」「ホームを知ってもらう為に買い物は地域の商店をりようする」
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		今年度は、介護職離れの影響か、近隣の中学からは依頼は無かった。小学校の運動会の案内も、数年前より無くなってしまった。今後は、自ら地域との付き合い方をどうするか？考える必要がある。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		近隣に子供の姿が見えなくなっている。自治会の活動も余り無い。ヤクルト販売所の上が託児室になっているので、遊びに来て貰える様にはなしを試みる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>居宅などに訪問して、空き状況や、案内パンフレットを置きながら挨拶回りをしている。</p>		<p>居宅よりご紹介を受けた方には、ご見学などの案内を入居相談より案内を速やかにしている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の評価の指導後、各階で計画し、外食、外出に力を入れて対応する様になった。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、ホーム内の行事や、入居、退居の報告、次回開催の案内をしている。</p>		<p>開催日を平日にすると、ほとんどご家族の参加は難しいが、又日曜日の開催では、包括の職員さんの参加が難しく、開催日について現在検討中です。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護保険課より生活指導員が月1回ホームを訪問しご利用者様の様子を確認している。年2回介護保険課主催により地域の施設の方と一緒に意見交換会を行い交流をしている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>埼玉県で行う講習会に参加したことはあります。</p>		<p>以前使用していた方が1名いらっしゃいました。全職員が、講習会などに参加出来る機会が無い。案内を回覧し、自発的な参加が出来る様な職員指導をしていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加している。参加者主催で職員会議などを使い職員間で話し合っています。</p>		<p>虐待防止マニュアルなどがあり、安全対策委員等でもカンファレンスを行い、委員会に出た職員による勉強会をホーム内で開催した。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には、十分な時間を取り詳しく説明をしている。退居時には、事前のカンファレンスをご家族と行き十分に話し合う様にしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>、お客様相談室を設けている。なるべくホーム内で解決出来る様に、面会時、お声を掛ける様にしている。見学時の相談なども対応している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>社内会報と一緒に、月に一度の収支報告、フロア長からの近況報告を郵送している。</p>	<p>運営推進会議の参加が少ない為、参加して貰える様な内容の行事を考え一緒に郵送出来る様に対応して行きたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様が、苦情がきちんと会社に届く様に玄関にポストがある、職員も入れられる様になっています。月一度会社の代表宛に行く様なシステムになっている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議の時などに、職員の意見を聞く様にしている。出来るだけ意見は、反映出来る様に取り入れています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員間で、協力体制が取れ、協力出来る体制を取っています。</p>	<p>職員間で協力出来る様に会議などで話し合い、長期の休暇も可能な、体制が出来て来た。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>以前は、退職者の都合によりご利用者様に伝える事は、避けていたが、移動や、採用時は会を設けご利用者様と一緒に歓迎会を行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で3年目までは、フォローアップ研修をおこなっている、社内研修には、段階別研修なども多くある。		社内研修があり、社外に行ける余裕は、余り無くなってしまふ。社外の研修や、講習会に参加出来る様な対応をして行きたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回介護保険課主催により地域の施設の方と一緒に意見交換会を行い交流をしている。会議等で話し合った事などは中々結果として戻って来て居ない。		今後話し合った内容が今後の運営に役立てられる様に、又ケアなどの相談が出来る関係になる様に努力して往きたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間で平等に、月末に希望を取り公休が取れる様にしている。		新しく採用された方が困らない様に、気をつける。助け合うなどを、職員会議などで伝えています。離職率は、減少しています。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員間で得意な事は、自発的に出来るように、促している。出来ない事は、教え合う協力は出来ている。ケア計画ポイント研修には、職員で順番に参加出来る様にシフトの調整を行っている。興味がある物や、業務に役立てられる様な内容の研修には、希望を伺い参加が出来る様に対応している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実調査で、なるべく聞き取りし充分な資料を作成する。入居が決まってからは職員が実調査を回覧出来るように対応している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居後は細かく日常生活を報告する事により安心して頂く。必要な時は、なるべくホーム長から連絡する様になっている。見学時の相談にも対応出来る様にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	臨時にカンファレンスなどを開き、速めの対応を心掛けている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時は、本人の気持ちを尊重し、見守り、観察を強化する。困った時は、ご家族に相談し、ご家庭の様子を確認し、サービスのヒントにしている。		新しい入居者様は、特に気持ちが、不安定な事もあります。日頃から焦らない介護を意識する。言葉使いに気を付けるなど、会議などを使い話をしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で学ぶ事は、沢山あります。常に人生の先輩者として、個人を尊敬する気持ちを忘れずに業務を行っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは、友好的関係を築く努力をしている。密に連絡を取り合いご家族と一緒に介護を考えるように対応している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居後は、面会時に時間を少し頂いて話をしたり、電話連絡をしたりして信頼関係を築く様にしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も、積極的な面会、外出を促す。外出先の変化や、会話など話せる範囲で話して頂く。		入居後余り面会に来ない方が良いかと、相談される事ある。是非ホームへ来て下さいと話をする様にしている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が間に入りながら対応して行く。食事の席を固定する事によりご利用者様同士の関係を築いて頂く。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域の方の入居の為散歩の時に合ったりする時は、挨拶をする様に心掛けています。以前退居された方よりご紹介を受けた事があります。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴を忘れずご利用者様の思いは、叶う様に対応している。言葉が伝えられない方は、日常の変化を良く観察し、本人の思いを読み取る様に努力する。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力を頂、今までの生活歴などを把握し、なるべく今までに近い生活に近い状態でケアをしていく。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来る事を職員が知る、見極めるなど本人が焦らない様に促す。出来た時は、共に喜び自信を持てる様な声掛けをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の意向本人の思いなどは、会議等の課題にしたりする。特別の時は、臨時会議を開催する。		入居して間もない方は、環境の変化に適応出来ず、思わぬ事をしてしまう事がある。職員の声掛け、対応方法について、ユニット会議を開催する。情報の共有をする。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画でプランの見直し、状態の変化を見落とさない対応をする。ご家族の意向、訴えを入れてカンファレンスをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かく生活記録に記入する。個人の連絡は、個別のファイルで記録を残す。職員が共有出来る様になっている。		職員にケアプランを知って貰いたいと思い、正職員と一緒にプランの作成に参加して頂く様になった。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	重度の対応者でも生活が出来る様に、隣接する、特定すこや家の機械浴を貸して貰う事もある。		隣接ホームとの交流、困った時は助け合う気持ちを持ち欠員が出てしまった時は、ヘルプに行くなど協力体制を築いている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の床屋の店主の方に三味線をお願いしたり、職員の所属のコーラスなどに来て頂いたりしている。		県民活動センター生き生き大学の方の訪問もある。運営推進会議の時などに訪問して頂き、皆さんと一緒に楽しんで頂いている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	以前は社会福祉協議会の安心サポートを利用していた。利用していた時は、生活相談員さんと活動内容についてカンファレンスを行っていました。現在は医療訪問医師の訪問日にご家族様の立会いをお願いして治療の方針などを検討している。		余り地域との交流は、無いように感じている。営業だけではなく、自ら利用者様と地域の居宅などに、挨拶に行く。GHを知って貰う努力をする。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などで、案内は出しているが、参加が難しい様です。		運営推進会議の参加を出来るだけして貰える様日程の設定を検討して行き、相談出来る機会を増やして行きたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	数名の方は、入居前からの主治医で対応している。クリニックが近くの為め、ご家族が如何しても行けない時は、連絡しご家族の代わりに受診する事もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日頃近くにいらっしゃらないご家族が受診で困らない様に職員が、ドクター宛に手紙を書く、ご家族に託す。必要な時は、ドクターの話しに同席させて頂く対応をしている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携加算看護師が、毎週訪問し、健康状態や体の変化を診て下さる。職員の相談、時に助言などをして下さる。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の情報がない為、定期的な面会を行う。時にはご家族と、病院主治医との面談にも参加して、早目の退院支援が出来る様に促している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族、主治医との連携、カンファレンスなど、出来ることから、初めている。		ターミナルケアの講習や、勉強会を取り入れ行く様に努力する。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族が、最終的にどうしたいかを、きちんと話し合い出来るだけ協力する。ホームの中での限界をきちんと説明する。		職員会議の中で、終末期を迎えるご利用者様、今後そうなると予想される方に関しての情報共有をしている。職員が全員で取り組む課題として話しをしている。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族が、書類の作成で困らないように助言するなど出来る事は、なるべく助ける。入院中は、介護サマリーを作成し入院中に困らない様に考慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>共有での会話には気をつける。集団生活の為、新しく来られるご利用者の知人の方の情報は、事前の連絡をお願いしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>穏やかな気持ちを持ち対応する。本人が理解出来る様に、職員のペースにならない様に気をつける。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個人の訴えを尊重し、ゆったりとしたケアが出来る様に対応する。残存機能を最大限使える様に対応する。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>個人で美容室に行く方や、訪問美容を使う方、男性利用者様は、近隣の床屋へ行き、気分転換をしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>おやつ作りや、行事などをご利用者様と計画して、メニューを決め、買物や調理などを行い楽しみながら参加して頂いています。</p>	<p>家事の好きでは無い方も居るので、別の対応も考えている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご家族様から、情報を頂き、もしくは本人に伺いお誕生日会などに、対応したりしている。</p>	<p>各階により、ホーム内で職員と作る時もあるが、おやつを利用し外食を計画する階もあります。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	各階共通排泄表を使い共通で対応出来る様になっている。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	声かけをしたり、自発的に訴えたり、して入浴が出来る様になっている。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	就寝時間はあるが個人のペースに合わせて対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	出来る事のお手伝いは、時間を使っても出来る限り自らやって頂く。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	少しの現金は、個人で持っている方います。高額金額は、ホーム金庫で預かるようにしている。		社内で、ご利用者の現金は、5万円までホーム内金庫で預かる決まりが出来た。
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	全ての希望は難しいが、出来るだけ希望が通るように対応している。ホーム内消耗品買出し、近隣の買い物には声をかけ一緒にする様に支援している。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援している</p>	外食や、レクリエーションの買出しなどに出掛ける。ご家族とが外出が決まって居る時は、ホーム内行事優先ではなく、ご家族優先で対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも掛けられる様になっている。ご家族様の中では、電話を拒否されている方も居るため、別の対応をする事がある。		頻繁に知人より電話があるご利用者様の批判があり、対応について検討が必要です。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	個人の居室でくつろいで頂く。時に出前を取り一緒に食事をする。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の中で、検討したりする。どうしても夜間ベットより落ちてしまう方の対応は、職員間で意見を出し合い考える。		ご家族とも相談し安全な対応を考える。どうしても居室の見守りが出来ないご利用者様には、見守りが出来る居室の移動も検討もかんがえる。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を出る直ぐ私道になっていて危険の為鍵を掛けて対応している。		精神疾患のご利用者様が、急に不穏になり出してしまう事がある。危険の為施錠をしているが、投薬のコントロールをドクターと一緒にしています。落ち着き様子を診ながら対応方法を検討する。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜勤中は、フロア内で記録をかいている。物音がした時は直ぐに対応出来る様にしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物は、なるべくご利用者様の見えない事務所管理をしている。		日中洗剤などは、浴室の中に入れ扉を閉めている様にして、業務の効率を検討しました。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書の回覧、薬の確認、危険予知など、職員会議を使い検討している。		見落としてしまうヒアリハットについて今後話し合いの時間を持っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AED講習会を3ヶ月に一度社内で開催している。近隣のホームからも開催の案内が来る事もある。		出来るだけ大勢の方に知って頂く様に対応して行きたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練は、出来るだけ近隣に声を掛け、共同で行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個人の状態、ADLの状態は、密に連絡を取り出来るだけの対応をしている。特変時は、入院にならない様に早目の対応を家族と行っています。		今まで独居生活の方は、ご家族も知らない事があります。現在の状況を知らせる、良い事ばかりではない事を伝える時の対応も、今後は検討していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人状況を詳しく観察する。早期に異常が発見出来る様にしている。		定時処方以外の薬を処方した時には、職員に回覧出来る様に2階事務所に掲示する。全職員が周知出来る様にしている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療医師の対応は、全職員が出来る様にしている。ドクターとのかかわりを持つ事により薬に対しての意識を持つ。		正社員、常勤職員が、薬入荷や、往診にかかわる事により、業務内の意識を向上する様に働きかけている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表を使い職員が共有出来る様にしている。		下剤に頼らず、さつま芋、林檎などおやつに取り入れる。個人的にヤクルトを購入したり、宅配の牛乳を取るなど、食物繊維を取る様にご家族様に協力をお願いしている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケア一月2回の歯科医師訪問、毎週訪問の衛生士による口腔内のチェックを取り入れている。		医師による助言などを参考にして、日々のケアに役立っている。困った時は、歯科ドクターに連絡出来る様になった。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない方は、ご家族様に今までの嗜好好みを伺う。行事を使い皆さんで作る喜びを感じて頂く様な対応をしている。		ADLの低下により、食事を忘れかけている方には、促し時間をかけ摂取して頂く。遊んでしまい摂取できない方は、ドクターと相談し栄養剤(ラコール)などを処方して頂く。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ご家族様から同意を頂、接種している。ご家族が、市町村の医院に連れて行き接種する方もいます。入居審査時に健康診断書の提出必ずして頂いています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	知人の方のお土産などは、事前にお断りをして、居室には、置いて帰らない様に話しています。事務所管理をして職員に周知して頂き後日個別に召し上がって頂くように対応している。		どうしても居室に置いて帰ってしまう家族の方には、ホーム長より直接話しを何度もした事があるが、改善されなかった。その事でフロアー会議を行い意見を職員に求めた。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、季節の写真や、壁画、生花などを飾り明るく見える様に努力している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓側にはソファがあり、ゆっくり出来る様になっている。ご利用者様の中には、定位置があり、居眠りをしたりリラックスが出来る場所になっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側のソファに集まりコーヒーを飲んだり、時には雑談したり、ご家族様と過ごす場所になっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の時に使う食器は、馴染みな物で対応している。ご飯茶碗や、湯のみ、箸など壊れた時には、散歩がてら購入して来て頂く様に支援している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の際は換気をする。洗濯物はこまめに洗う。なるべく入浴をして清潔を保つ様に対応する。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使ったりして、残存機能を使う。		車椅子にばかり頼らず健康状態を見て歩行を促すケアプランの中にもなるべく歩行をする様なプランも取り入れて行く。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の扉に本人の目線で名前貼るなどの工夫をする事で混乱が、起こらない様に対応している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に花壇がある、玄関先に季節の花を植えて、季節を楽しむ様に対応している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

体操、歌、散歩、外出に力を入れて業務に取り組んで来た。自己決定の困難な方には、日々のケアの中で表情や、行動に注意をして興味のある事を探して行く。尊厳の保たれた生活が出来る様に支援して往きたい。